

令和5年度(令和6年度実施)事務事業評価

事業整理番号 0401 - 03

事務事業名	としま未来文化財団運営・事業助成経費	担当組織	文化商工部	文化デザイン課
-------	--------------------	------	-------	---------

事業特性												
事業を構成する予算事業	事業開始年度	30年度以前	事業終了年度		計画／一般	一般	計画事業№	8	－	1	－	10・11
	単独／補助	区単独事業	運営形態	直営	関連するSDGsゴール							
	①	としま未来文化財団事業 事業助成経費				②	としま未来文化財団事業 運営助成経費					
	③					④						
	⑤					⑥						

政策体系(令和5年度基本計画)			
地域づくりの方向	伝統・文化と新たな息吹きが融合する魅力を世界に向けて発信するまち	政策	アート・カルチャーによるまちづくりの推進
施策	文化芸術の鑑賞・参加機会の創出【重点】	政策番号	8-1-1
関連する個別計画		計画策定年度	計画期間

1. 事業の概要・指標の達成状況									
(4) 目標の達成状況	(1) 実施の対象(具体的に記載)	区民							
	(2) 事業の目的・期待する効果	区の文化施策の一翼を担っている公益財団法人としま未来文化財団(以下、「財団」という。)の事業展開に対して、区が支援することにより、質の高い文化芸術活動を地域等と連携しながら展開し、豊島区の文化芸術の全体的な質の向上と活性化を図る。							
	(3) 事業概要	財団が実施する文化芸術振興事業に係る事業費及び管理運営経費(本部経費)を助成する。 ※主要事業…次世代育成事業(子ども向け事業、区内児童施設連携事業等)、文化芸術振興事業助成(としま区民芸術祭、庁舎ランチタイムコンサート、エチカ池袋ギャラリー活用事業等)							
	5年度の取組内容 5年度に実施した具体的な業務内容	■事業補助 ①次世代育成事業 ・コンサート参加者数 339名・講座参加者数 80名(※現地+オンラインワークショップ) ・子ども向けクリスマス公演 1,307名・0.1.2のおもちゃ箱 177名 ・子どもスキップ等連携事業 85名・架け橋プロジェクト 130名 ・日本舞踊教室 延195名 ②文化芸術振興事業助成 ・「としま能の会」等開催 9,517名・庁舎ランチタイムコンサート 6回 1,146名 ・エチカ池袋ギャラリー活用事業・区民センター等利用調整に伴う代替施設等対応 ・管弦楽団区民センター楽器備品置き場等に伴う対応・区民合唱再結成～集まれ!第九を歌おう!!合唱団～ ■運営補助 管理運営経費(本部経費)の補助							
(5) 取組実績	成果指標 事業目標の達成度	成果指標	目指す方向性	単位	4年度(実績)	5年度(計画)	5年度(実績)	(達成率)	6年度(計画値)
	①	区民意識調査	↗	%	31.3	48.0	34.6	72.1	50
	②								
	③								
(5) 取組実績	指標の説明	区民意識調査で、「目指すべき生活環境に対する現在の評価」について、「多様な文化芸術活動が展開され、良質な文化芸術に接する機会が多い」に「どちらかというと思う」と答えた人の割合							
	達成状況	一部未達成	未達成または一部未達成の理由	成果指標が未だ目標値を達成していない理由として、コロナ禍を経て、地域住民の外出機会は増えているものの、それがコロナ前の水準に戻っただけであり、「文化芸術に触れる機会が増えた」と感じるまでにはまだ至っていないためと考えられる。					
	活動指標 事業の実施状況	活動指標	目指す方向性	単位	4年度(実績)	5年度(計画)	5年度(実績)	(達成率)	6年度(計画値)
	①	財団への助成	→	件	2	2	2	100.0	2
(5) 取組実績	②	主要事業の来場者数	↗	人	7,643	8,550	12,976	151.8	8,550
	③								
	指標の説明	①事業助成・運営助成 ②主要事業…次世代育成事業(子ども向け事業、区内児童施設連携事業等)、文化芸術振興事業助成(としま区民芸術祭、庁舎ランチタイムコンサート、エチカ池袋ギャラリー活用事業等)							
	達成状況	達成	未達成または一部未達成の理由						

2. 事業費の推移								
単位 (金額の項目:千円 人数の項目:人)		4年度		5年度			6年度	
		予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減(R5決算比)
事業費	A	336,877	286,806	332,887	272,712	81.9%	317,539	44,827
国、都支出金	B							0
使用料・手数料								0
地方債・その他								0
一般財源	C=A-B	—	286,806	—	272,712		317,539	44,827
正規職員人数※小数点第1位まで		1.0	名	1.0	名		1.0	名
会計年度人数※小数点第1位まで		0.0	名	0.0	名		0.0	名

3. 総合評価及び令和6年度以降に向けての対応・改善策

【指標の達成状況(a)】

→S、A、B、C、Dの5段階で評価

B

根拠

成果指標は目標達成していないが、活動指標はいずれも目標達成している。

※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。

※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。

①目標に対する成果状況を踏まえた課題

成果指標の目標値と実績値の達成度をしっかりと追跡・分析し、区民が魅力を感じる文化事業の企画を行い、参加を促進する必要がある。

②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果)

(例)子ども向け芸術体験事業
全ての事業に対し、楽しかったというコメントも多く、おおむね好評であった。また、アンケートコメントからは手や身体を動かして参加できるもののニーズの高さが見受けられた。

【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】

S、A、B、Cの4段階で評価 →

B

根拠

より効率的に文化事業を展開するため、現状の事業見直しを実施中である。

※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄に記載してください。

※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。

①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲)

成果指標の目標値と実績値の達成度をしっかりと追跡・分析し、区民が魅力を感じる文化事業の企画を行い、参加を促進する必要がある。

②現状の実施状況における所管課の認識

事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択した理由	・外部環境の変化に合わせて事業をリバイスし、適宜見直しを行っている。
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	無	選択した理由	・補助事業であるため直営化等の検討は行っていない。
サービスに係るコストは適正か	適正	選択した理由	・補助事業であり、コストは適正である。
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合)事業名	

③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況

対応、改善を既にを行った	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置
はい・いいえどちらも(はいの場合は更なる対応・改善の予定)				
対応、改善の予定	有	無	対応、改善の予定がない理由	
有	対応、改善の内容	財団との協議を基に、事業内容の改善を継続していく。		予定時期
	予算措置	有	有	予算措置を伴わない実施との比較検討
			無	予算措置を伴う理由
				補助事業であるため

【区が実施する必要性(c)】

S、A、B、Cの4段階で評価 →

A

根拠

文化芸術活動を展開し、次世代に引き継いでいく必要性は減少していない。

※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄に記載してください。

※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。

①区が実施する理由(複数選択可)

☐ 区の他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	☐ 法律の要請を受けて行う事業である。
☐ 民間事業者等に同様のサービスがない。	☐ その他(理由) 文化事業を展開する財団を適切に支援していく必要があるため。

②区民ニーズ

区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(成果)	①		指標番号(活動)	②		サービス利用者数	50名以上
			推移	→		推移	↗			
有・無どちらも										
区民ニーズに対する認識	区民意識調査においては目標値に達していないが、設問に対する回答率及び事業への来場者数は年々増加しており、一定数のニーズはあると認識している。									

総合評価(d)=a+b+c

ランク3

4. 【前年度事務事業評価対象事業のみ】改善に向けた取組内容について

(前年度事務事業評価表) 4「所管課の認識・R5年度以降の対応」を記載	
上記の改善に向けて取り組んだ内容を記載(未着手の場合は理由を記載)	
改善に向けた取組内容についての自己評価 (e)	根拠

5. 令和6年5月末時点の状況

①令和6年度当初の課題・ニーズ	令和6年度は基本計画を策定する年である。現在、区民の多様なニーズに対応できていない部分があり、この機会に文化事業に関する区民のニーズを探る必要がある。加えてとしま未来文化財団の強みを活かし、区と財団とで連動した事業の展開が求められている。
②国・都の動き(関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など)	特になし
③令和6年度の方向性・取組方針(事業展開)	課題認識を踏まえ、財団との意見交換を重ね、区民の意見を取り入れながら文化事業の再構築を進めていく。特に、区と財団との役割分担を明確化し、効率的かつ効果的な文化事業の展開を目指す。具体的には、区民のニーズをしっかりと把握し、関係者との意見交換を通じて、今後の文化事業の展開の基礎を作り、次年度以降の文化事業の安定運営に繋げていきたい。
④令和6年度の事業進捗状況	本補助金で実施している事業については、財団との定例会を通じて進捗状況を管理している。
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	今後、区民の関心度やニーズを把握するため、文化イベントなどを通じてアンケートを実施する予定である。
⑥上記⑤に対する対応	現時点では特になし。

-----以降の項目は、評価内容を踏まえて管理職が記載してください-----

今後の事業費予算要望(f)	現状維持	根拠	現状を維持しつつ、区と財団の文化事業の役割分担を明確にし、精査を継続することで、極端な増額とならないよう細心の注意を払いたい。
今後の事業の方向性(d+e+f) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)	B	※eは該当の事業のみ加味	
上記判断と今後の事業の方向性を踏まえ、令和6年6月以降に向けての対応を記載(改善方法、課題への対応など)			
としま未来文化財団に対する運営補助と事業補助は、豊島区が文化事業を展開するうえで不可欠な予算である。今後は、としま未来文化財団とのコミュニケーションをこれまで以上に活性化し、財団と区の役割分担を明確にしながら、より効果的な文化事業を展開していく所存である。			